

公明党議員団研究研修報告書

1 研究研修項目

地方自治体は子どもの問題に何ができるか

第1 講義 10:00～13:00

「子ども・家庭を取り巻く現代的な課題について」

第2 講義 14:00～17:00

「児童虐待・子ども貧困根本解決に向けて地方自治体ができること」

主催 地方議会総合研究会所

講師 辻 由起子氏（大阪府子ども家庭サポーター）

2 研究研修場所

アットビジネスセンター池袋前別館（東京都池袋駅前）

3 実施年月日

令和元年10月23日（水）

公明党議員団研究研修報告書

実施年月日	令和元年10月23日(水) 午前10時から午後5時まで
研究研修場所	アットビジネスセンター池袋駅前別館
研究研修項目	午前 子ども・家庭を取り巻く現代的な課題について 午後 児童虐待・子どもの貧困 根本解決に向けて地方自治体ができること
参加者	泉 清秀
研究研修内容	<p>1 子ども・家庭を取り巻く現代的な課題について</p> <p>現代では、地域とのつながりが希薄になり、出産後孤立してしまうと誰からも育児を学ぶことができない。子育てに対する自信喪失感や疲弊感などが虐待につながるが、これらは子育て中に誰もが感じる思いであり、大切なのは、育児不安を抱えたときの周りのサポートである。そのためには、縦割りや年齢を超えた地域での居場所づくりが必要である。また、時代にあわせた性・生教育を実施し、育児体験や家計等について具体的に学ぶ機会を提供することもスマホ世代の子どもたちにとって有益となる。</p> <p>2 児童虐待・子どもの貧困の根本解決に向けて地方自治体ができること</p> <p>専門職を増員したが、専門性を高める時間が必要なこと等を理由に改善には至らず、根本原因にアクションをかけていないため現場は悪化した。児童虐待が増加する理由として、面前DV、保護者支援不足、次世代への教育不足などが挙げられる。現代では、7人に1人が貧困状態であり、1人の子どもを貧困から救えば1億円の便益になり、貧困対策は大きなメリットである。</p> <p>児童虐待、子どもの貧困をなくすために、数年後、親になる可能性のある世代に教育の中で暮らしや子育てなどを伝えていくこと、周りのサポート力を強化すること、親子が気軽に集まれる居場所をつくるのが大切であり、行政の縦割りをなくすことが求められている。</p>
所感	<p>上記の項目で午前、午後と講演を拝聴し、全体の大きなポイントは「性・生教育」がおろそかになっていることだが、そこに行き着くまでのプロセス、なぜ? 「性・生教育」が虐待、貧困につながるかをご自身の体験を交えた講演であり、大変感銘した。恋愛も子育ても本能任せではうまくできず、赤ちゃんを預かり育てることや命の大切さ、尊さを教えることの大切さを痛感した。子どもを虐待する親への影響は、「児童虐待防止」ではなく、「子ども家庭愛護」の気持ちが大切であり、地域で「お茶の間」を増やす事業等を実施することで虐待と貧困が大幅に減少することが明らかであった。</p> <p>私は、過去に貧困問題や児童虐待などいくつかセミナーを受講した。子ども食堂や子どもの居場所サロンなど、もち論大事だが、それは事後対策であり、根本的対策を考えなければ、いつまでたっても児童虐待の被害や貧困の子どもを減らすことはできないのではないかとずっと疑問を持ち続けていた。今回の辻先生の講演でやっと探し求めていた回答が見つかったように思う。その根本原因は、学校や家庭での「性・生教育」の欠如にあることに気づき、まさしく「眼からウロコ」であった。今回のセミナーで学んだことを今後の議員活動の中で、政策として行政に提案できるよう頑張っていく決意である。</p>